

# 日本聖公会 管区事務所だより

日本聖公会管区事務所  
162-0805 東京都新宿区矢来町 65  
電話 03 (5228) 3171 FAX 03 (5228) 3175  
発行者 総主事 司祭 矢萩新一

## 「Do Your Best」

管区事務所総主事 司祭 エッセイ 矢萩新一

「神がキリスト・イエスによって上へ召して、お与えになる賞を得るために、目標を目指してひたすら走ることです。」

(フィリピ3:14)

台風などの災害によって、被災された方々、不安な生活を余儀なくされている方々、支援活動をされている方々に神さまの癒しと祝福がありますように心よりお祈り申し上げます。

リオデジャネイロでのオリンピック・パラリンピックが終わりました。4年に一度のスポーツの祭典、日々の鍛錬と努力の成果を振るわせる選手たちの姿を興奮と感動を持って見つめられた方々も少なくないと思います。

先日バチカンで列聖された「マザー・テレサ」の伝記を読んで感想文を書くという小学生の娘の宿題があり、「マザーは努力をして貧しい人たちの為に働いたからすごい」という娘に、「何でそんな努力ができたのだろうね」と意地悪な質問をしてみました。まだ少し難しかったようです。“Do Your Best and It Must Be First Class”という清里のポール・ラッシュの言葉をどう理解すればよいだろうかとある方と話したことを思い出します。この言葉は、「あなたがイエスの名において事業に取り組むのであれば、最善を尽くすべきだ。そして人々から目標とされ、まねをされるような、本物で一流の仕事であるべきだ。」と、聖路加の初代病院長トイスラーから伝授されたそうです。

私たちは何に向かって努力をするのでしょうか。努力とは、目標を実現するために、心や身体を使ってつとめることです。キリスト者である私たちは、神さまの愛、イエスさまの十字架に依るという目標に向かって努力しようとしているのですが、なかなか結果が見えず、なぜ自分だけに困難が押し寄せてくるのだろうか、心が折れそうになることもしばしばです。イライラして人を見下し、人を裁く高慢な心に幻滅してしまうことも少なくありません。そんなとき、私たちがどこに目標を定めているかというところを見つめ直す必要があるように思うのです。

## □会議・プログラム等予定

(8月25日以降および  
前回報告以降追加分)

### 9月

- 13日(火)～15日(木) 管区共通聖職試験
- 24日(土) 正義と平和・ジェンダープロジェクト〔京都教区センター〕
- 26日(月)～29日(水) 在日韓国出身教役者の集い〔小倉・熊本・大分〕

### 10月

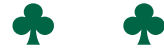
- 3日(月) 常議員会〔管区事務所〕
- 4日(火) 管区共通聖職試験委員会〔管区事務所〕
- 4日(火)～6日(木) 管区人権セミナー〔郡山〕
- 24日(月) 収益事業委員会〔管区事務所〕
- 27日(木)～28日(金) 日本聖公会資料保管に関する東西合同協議会〔牛込聖公会聖バルナバ教会〕

### < 関係諸団体会議等・他 >

- 9月17日(土) 史談会〔管区事務所〕
- 11日(火)～14日(金) ベテル・フェローシップ〔九州〕
- 24日(土) NCC主催・宣教会議プレ集会〔早稲田〕
- 10月5日(水) 日本宗教代表者会議設立委員会・発会式〔京都〕
- 13日(木)～15日(土) 聖公会社会福祉連盟大会〔大磯〕
- 17日(月) キリスト者平和ネット運営委員会〔富坂〕
- 19日(水)～21日(金) 日キ連 法人事務・会計実務研修会〔箱根〕
- 21日(金) NCC 役員会〔管区事務所〕

# Alleluia

罪深い私が、ゆるされ、用いられ、招かれていることに気が、感謝と勇気が与えられますようにと祈り・行動する者でありたいと思います。



## □常議員会

第62(定期)総会期第2回8月10日(水)

<主な決議事項>

1. 管区ハラスメント防止・対策担当者に訴えのあった案件について協議をした。

次回および次々回会議：10月3日(月)、12月2日(金)

## □主事会議

第62(定期)総会期第2回9月12日(月)

1. 聖公会センター地下室排水工事について  
聖公会センター地下室の外壁から水が漏れ、常に水が溜まっているため改善工事を検討中。
2. 海外出張承認の件-承認
  - ・司祭 西原廉太 英国/ケンブリッジ〔世界改革派-世界聖公会国際対話全体会議 9/1～9/9〕
  - ・女性デスク(木川田道子、吉谷かおる) 韓国/ソウル〔韓国の女性宣教センター祝福式 9/3～9/5〕
  - ・司祭 市原信太郎 韓国/ソウル〔IALC 関連シンポジウム 11/4～6〕
  - ・礼拝委員会(司祭 市原信太郎、司祭 笹森田鶴、執事 麓 敦子、執事 永谷 亮) 香港〔IALC 東アジア地域カンファレンス 11/7～11〕
3. 2017年「聖公会手帳」について  
広報主事より編集作成の進捗状況の報告を受け、前年残部・印刷製本代・資材代・校正費などを考慮し、価格を検討した。

次回会議：11月24日(木)

## □各教区

### 北海道

- ・美唄聖アンデレ教会礼拝堂聖別解除礼拝(聖餐式) 10月15日(土) 13時半 司式：植松 誠首座主教 説教：大友正幸司祭

### 東北

- ・東北教区宣教125年 東北教区フェスティバル 11月3日(木・祝) 主教座聖堂 仙台基督教会およびピンステッド主教記念ホール

### 北関東

- ・第7回 信徒・教役者の集い 10月9日(日)～10日(月・祝) 教区成立120周年記念聖餐式および講演会 テーマ「今の教会を生きる」 講師：植松 誠首座主教 志木聖母教会

### 東京

- ・教区フェスティバル2016 9月19日(月・休) 10時半～ 香蘭女学校 司式：大畑喜道主教 説教：武藤謙一主教(九州教区)

### 横浜

- ・第76(定期)教区会 11月22日(火) 18時～23日(水・祝) 16時 横浜聖アンデレ主教座聖堂

### 中部

- ・第88(定期)教区会 11月23日(水・祝) 9時～16時 主教座聖堂 名古屋聖マタイ教会

### 京都

- ・第111(定期)教区会 11月23日(水・祝) 9時～17時 主教座聖堂・教区センター会議室

### 大阪

- ・教区礼拝/聖餐式(教区成立93周年) 10月2日(日) 10時半 プール学院中高 清心館 司式・説教 磯 晴久主教

### 神戸

- ・第84(定期)教区会 11月23日(水・祝) 7時～14時 第85(臨時)教区会 11月23日(水・祝) 14時半～17時 主教座聖堂

神戸聖ミカエル大聖堂

### 九州

- ・第111(定期)教区会 11月22日(火)17時～11月23日(水・祝)15時 主教座聖堂および教区センター

### 管区

- ・日本聖公会人権セミナー2016「原発問題と人権 in 福島」10月4日(火)～6日(木)  
場所:セントポール会館(郡山聖ペテロ聖パウロ教会) 内容:お話「原発事故から見えてくるもの」、フィールドトリップ(居住制限区域、帰宅困難区域、避難指示解除準備区域等)

### □神学校

#### 聖公会神学院

- ・2016年度体験入学 10月5日(水)～7日(金) \*6日(木)のみ1日参加可 定員:男性4名・女性2名(全日程宿泊参加者・先着順) 費用:全日程12,000円/6日(木)のみ参加6,000円 問い合わせ:聖公会神学院事務局 電話:03-3701-0575

### ウイリアムス神学館

- ・2016年度体験入学 10月11日(火)～13日(木) 定員:10名 対象:18歳(高卒)以上の方 費用:18,000円(食費/宿泊費を含む) 申し込み先:ウイリアムス神学館

### □関係諸団体

- ・日本聖公会社会福祉連盟第57回大会・研修会10月13日(木)～15日(土) エリザベス・サンダース・ホーム(大磯)



† 逝去者 靈魂のパラダイスにおける光明と平安を祈ります。

マリアヤ松浦順子 (東京・元管区広報主査)  
2016年8月2日(火) 逝去(76歳)

司祭 ミカエル岡崎正 (神戸・退職) 2016年  
8月9日(火) 逝去(81歳)

### 📖 出版物案内

- ・『2017年度 教会暦・日課表』  
2016年10月1日付発行 価300円(税込)

### <人事>

#### 中部

- |               |             |  |
|---------------|-------------|--|
| 主教 ペテロ渋澤一郎    | 2016年7月2日付  | 可児聖三一教会管理牧師の任を解く。                          |
| 司祭 ジュールス・ゴロカン | 2016年8月31日付 | 可児聖三一教会牧師の任を解き、合わせて、フィリピン聖公会北中央教区からの出向を解く。 |
| 主教 ペテロ渋澤一郎    | 2016年9月1日付  | 可児聖三一教会管理牧師に任命する。                          |

## 聖公会手帳 2017 まもなく発行!

★2017年版より、管区事務局が編集・発行します!!

☆さらなる機能性と使いやすさを追求しました!!

★大型判・税込2,200円/通常判・税込1,200円

■ご予約は、聖公書店(Tel 04-2900-2771)または、お近くの書店まで

## 〈特集〉2016・広島／長崎「平和への祈り」

### 「広島平和礼拝」2016

— 怒りと赦しとを垣間見せた被爆証言 —

広島平和礼拝実行委員

神戸教区執事 セバスチャン浪花朋久

今年も8月5日(金)～6日(土)、「広島平和礼拝」が広島復活教会を会場にして行なわれました。関西を中心とした聖公会関係学校から約40名もの中高生・大学生はじめ、神戸教区内外からの参加者を合わせ、総勢約150名の方が、参加してくださいました。

8月5日(金)は、「碑巡り」からプログラムが始まりました。「入門編」では、広島平和公園内にある原爆ドーム、原爆死没者慰霊碑、韓国人原爆犠牲者慰霊碑、原爆供養塔などを5つのグループに分かれて巡りました。それぞれのグループにはガイドがついており、参加された方々は、平和公園内にどのような記念碑があり、どのような想いで記念碑が建てられたのか、などの説明を受けました。この「入門編」には、特に次の世代を担う中高生・大学生の参加者が多く、被爆当時の状況などの説明も受け、深い学びの時を経

験されたと思います。

もう一つの碑巡りのコース「大本营編」では、広島復活教会近くの広島通信病院の敷地内にある「旧外来棟被爆資料室」、広島城にある「大本営」「中国軍管区司令部跡」などを巡り、参加者の皆さんは有意義な時間を過ごされたように思います。

昼食後、教会礼拝堂で「被爆証言」が行なわれました。今年の講師は、近藤紘子さん。近藤さんのお父様は、原爆が投下された当時、復活教会近くにある日本基督教団流川教会の牧師として遣わされておられた方で、原爆が投下された時に、近藤さんとお父様は、流川教会で被爆されたということでした。当時、近藤さんはまだ1歳だったそうですが、両親や大切な人々を苦しめ、広島に原爆を投下した爆撃機エノラ・ゲイの操縦士を「許せない」という強い想いを抱いていました。

その後、近藤さんが、アメリカ留学の際にエノラ・ゲイの副操縦士と会う機会があったというのです。しかし、近藤さんは、副操縦士を見たとき「この人も人間なのだ」と思ったことで「恨むべきは人間では無く戦争だ」と、思い始めたそうです。この近藤さんの話から、私たちは原爆における「怒り」と「赦し」を垣間見ることができました。証言後、グループに分かれて「分かち合い」の時を持ち、近藤さんの証言について、また平和についてそれぞれの意見が述べられました。



8月5日にカトリックと共同で行なった平和行進



夕方からは、広島平和公園へ移動し、カトリック教会の方々と共に、供養塔前で祈り、供養塔前からカトリック世界平和記念大聖堂まで平和

行進をし、そして、平和祈願ミサを献げました。

8月6日(土)。朝8時から広島復活教会で、中村豊神戸教区主教をはじめ、三鍋裕横浜教区主教、武藤謙一九州教区主教、上原榮正沖縄教区主教によって、広島原爆逝去者記念聖餐式が執り行なわれました。礼拝中、原爆が投下された8時15分からの1分間、黙祷がささげられました。71年前に起こった悲劇が、二度と繰り返されてはいけない、そしてこの世界にキリストの平和が広がることを祈りつつ、今年の「広島平和礼拝」のときを過ごしました。



8月6日に行なわれた広島原爆逝去者記念聖餐式



## 被爆 71 年 今年の長崎原爆記念礼拝

—神様の「正義と平和」に近づいていきたい—

### スタッフ

熊本聖三一教会信徒 秋山みどり

8月9日(火)、長崎聖三一教会で「被爆71年 長崎原爆記念礼拝」が、今年も九州教区以外に東京、北関東、中部、横浜、神戸、沖縄教区の方々総勢64名が参加して行なわれました。

昨年と同様、テーマは「死の同心円から平和の同心円へ」を用いましたが、その広がりをもっと感じるために、準備段階で次のような工夫をしました。

礼拝では、各教会に、記念日に近い8月7日の礼拝、9日当日の礼拝でつながりのある祈りを捧げるため、《広島、長崎にちなんだ聖歌》聖歌421番、422番を歌うこと、原爆投下11時2分の黙祷、代祷に、原爆で亡くなった人々、後遺症で苦しむ人々、被爆した外国人、核兵器廃絶と平和への祈りを加える(資料配布)をお願いしました。又、さらなる広がりを表すための「平和

へのメッセージ」用カードを作り、教区中に送りました。その結果、九州教区の教会、礼拝堂、伝道所、それに沖縄の有志の方から平和へのメッセージ276枚が届けられ、8日長崎聖三一教会の礼拝堂の後方に直径250cmくらいのみごとな五重の同心円ができました。カードの一枚一枚を広い用紙に貼りながら、書いた方の平和への思いがこの円のように広がっていきますように、と切に祈りました。

当日の礼拝は九州教区武藤謙一主教の司式で行なわれました。11時2分の黙祷ののち、横浜教区三鍋裕主教は、

「本日の最初の聖歌323番は『神の世界』を歌っている。原爆、戦争は神への反逆だ。昨年参加したナバホランドミッションでの、70周年を記念する和解のお祈りはその地の人々にとって

は特別の思いが込められたものだった。アメリカのナバホと呼ばれる先住民族の人々は、ウランがいかにか危険なものか何も知らされないまま、掘らされていた。彼らは加害者か?いや、被害者である。他の国においても、採掘や核実験はすべて先住民族の土地で行なわれてきた。力あるものがないものを踏みにじっている。先住民として差別され、安い賃金でマスクもつけず、飲み水のみで働かされて、その挙句に被爆という二重三重の差別を受けている。

強い立場の者が弱いものを利用する、『人間のいやらしさ』、戦争はそのあたりから始まる。その『いやらしさ』は、私たちみんなが持っているものだ。私たちはそのいやらしさを乗り越えて、小さな小さな平和を神様

と仲間のために作り上げていかなければ決して平和は訪れない。この礼拝も犠牲者の安息を祈念すると同時に平和を作り上げる努力をします、という約束の礼拝なのです」と話されました。

感謝の祈りの後、今年は「洗礼の約束の更新」の祈りを行ないました、私たちが洗礼を受けた時のように、神さまにより頼む人生を再び宣言して、参加者が輪になって手をつなぎ、主教様方から棕櫚の葉からの聖水を用いての祝福を頂きました。

午後からは被爆者森口貢(もりぐち・みつぎ)氏の証言を聞きました。スクリーンの映像を見なが



「死の同心円から平和の同心円へ」の祈り

らのお話でしたが、今年80歳になられた氏の語られた言葉はどれも胸に突き刺さるものでした。今年、広島をアメリカのオバマ大統領が訪れたことの影響。日本国民に知らされていなかった原爆投下後の目を覆うような被災者、被災地の写真。原爆だけが取り沙汰されるが、毎日のようにあった空襲。いつも母親や子どもたちが犠牲になるということ。被爆者自身が高齢になり、生存している人が少なくなっている。でも、証言者

は「話してよかった」と言って苦しかった人生を終えておられる。「戦争はだめ」ということを伝えるために語り部として続けておられる人があることに、私は、思い知らされました。私自身は何をしているか、今年はス

タッフとして参加しましたが、報告で終わりではなく、三鍋裕主教の説教の中にありました「祈念すること」と「約束します」ということをいつも覚えながら、すこしでも神様の「正義と平和」に近づいていきたいと思います。

今年は九州熊本で大きな地震が起きました。信施は「長崎聖三一教会 平和宣教の働きのために」、「九州地震被災者支援のために」捧げられました。

## 「CCEA 青年フォーラムに参加して」

—宣教の5指標を通して青年の生き方を考える—

神戸教区神学生 永野拓也

今回私は、7月27日から8月1日の日程で開催されたCCEAの青年フォーラム（クアラルンプール）に参加した。このフォーラムには東アジアの様々な地域や国から、100人以上の青年が集い、宣教の5指標についての講義を中心に、現地の神学校への訪問や主日礼拝の出席などのプログラムが行なわれた。そこで、私たち日本から参加した12人は、東アジアの各国から集まった青年たちと充実した時間を共有することができた。

「宣教の5指標」という言葉は、私にとって馴染みのない言葉であった。フォーラムに参加するまでに2回の準備会を行なったにも関わらず、私の生活と現実的な繋がりを持つものには思えなかった。しかし、今回のフォーラムに参加したことで、宣教の5指標に対する捉え方が変化しつつある。

例えばある講義の中で、宣教の5指標はそれぞれが独立したものではなく、絶えず影響を及ぼし合うものであることが強調されたと同時に、1.信仰を「伝える」。2.変化し続けるキリスト教共同体を形成するために「教える」。3.人々の必要に答えるために「仕える」。4.不公正や非道さを「変化させる」。5.神に創造されたあらゆるものを「尊ぶ」というシンプルな言葉遣いで捉えること

が提案された。この提案は、5指標の意図することの理解を深めることを促した。また、第5の指標の講義を担当してくださったRachel Carnegia司祭は、環境問題などに対して教会が社会的に果たす役割の重要性を語る一方で、青年が「今」目の前でできることを実行する重要性も説いていた。環境問題を地球規模の次元で考えた時、私たち“青年”が入り込む余地はないように思っていた。しかしながら、青年一人一人の小さな力の積み重ねが何よりも大切だと言われた時に、参加者と第5の指標の距離が近くなったように感じたのである。

このように、各々の指標の講義を通して、多く発見が与えられたのだが、フォーラムの中でも繰り返し強調されていたことがある。それは、私たち人間は神によって愛された存在であるということであった。つまり、私たちが学んだことは、宣教の5指標を通して、自分自身が既に神に愛された存在であることを「知る」ことであった。そして、私たちが神から愛された存在として、その愛を自分の内にだけとどめるのではなく、周囲に広めていく生き方を模索していくことが求められていたのであった。

日本の教会で“青年”について考えるとき、人数の減少や活動の停滞感など、ネガティブな要素に目が行きがちのように感じる。し





かしながら、今回フォーラムを通して他国の青年活動を知っていくなかで、決して日本の青年活動が見劣りしているようには感じなかった。したがって、今私たち青年に求められていることは、活動そのものの意味を問うことではないだろう

か。神に愛された存在として、“社会”“教会”のなかで、どのように生きていくかという問いの中で、これからの青年活動に参加していきたいと考えている。

## 日本GFS 100周年記念礼拝と研修会

### —世界に繋がるGFSの活動—

日本GFS 100周年記念礼拝、聖餐式は8月1日、京都聖アグネス教会で行なわれました。およそ100名の会衆の中に今年102歳になった初代会長の辻恵美子さんのお元気なお姿が見られた時、深い感慨と共に励ましを覚えたのは、私だけではなかったと思います。

産業革命のころ英国で始まったGFS (Girls Friendly Society) が日本に伝わったのは、ちょうど100年前のことで、当時宣教師として平安女学院にいらしたミス・マギルが少女の教育に取り入れたことが始まりとされます。その後1958年八代斌助首座主教の任命により辻恵美子さんが会長となり、全国的な組織となっていったのです。

今回の日本GFS 100周年記念研修会「神様に繋がる光・・・時を超えて」は、京都教区GFS主催で、先人たちのたゆみない努力の歴史をたどり、その働きに連なる今ある私たちの存在を感謝し、神様に喜んでいただけるように、これからの100年を歩みだそう、ということがテーマでした。

研修会の構成は4つのセッションからなっていました。第1セッション「今、少女が危ない」はECPAT (Stop子ども買春の会) の斉藤恵子さん、金尻カズナさんの講演。第2セッション「GF

### 東京教区GFS支部長 アンナ水谷治子

Sの歴史」では、GFS 100年誌編集担当の北川規美子さんのお話、第3セッション「GFSで育つ」は、GFSから司祭となった笹森田鶴司祭、西平妙子司祭、木村夕子司祭によるフリートーク、第4セッション「今からの100年」では100年後のGFSへ全員で手紙を書くという盛沢山の研修会でした。



100年の歴史を踏みしめて。(写真提供:大岡左代子司祭)

また日本GFSが5年前からかわっている東日本大震災支援の活動報告と、九州地震の現況も、参加者から生の声として聞くことができました。そして、記念礼拝の信施金は九州地震の

支援のために捧げられました。

この研修会及び記念礼拝にはオーストラリアから世界GFS議長Val Gribble 姉と韓国からGFSチャプレン、会長など4人の方々が出席くださり、英語、韓国語が入り混じり、世界に繋がるGFSならではの研修会となりました。

また企画から加わってくださった磯晴久大阪教区主教、開催教区の高地敬京都教区主教、そのほか多くの皆さまのお働きと神様のお恵みのおかげで、とても良い会となったことに感謝します。特にこの大役を立派に務めた若き岡墻歩美会長にエールを送りたいと思います。



## 世界の聖公会の動向

CCEA 青年会議・相模原殺傷事件ほか

渉外主事 司祭 ポール・トルハースト

### ○ 東アジア青年会議はたゆまないキリスト教宣教を予告

CCEA（東アジア教会協議会）の青年会議がマレーシアの首都クアラルンプールで2016年7月27日から8月1日の日程で開催された。会議のテーマは「神様の為に立ち上がり、キリストを通して地域社会に貢献する」。参加者はマレーシア、ミャンマー、日本、韓国、オーストラリア、香港、台湾、シンガポール、フィリピンからの93名。

2016年青年会議は、聖公会の掲げる Five Marks of Mission（宣教における聖公会の5つの指標）に焦点を絞って、青年たちは聖公会の信徒であることの理解を深め、世界に広がる教会とは何かを理解し、異なる環境に於いてイエスと共にいる事の意味を理解する事を求めた。

明快で心の底から湧きおこる主に対する従順と信頼を求める為に、この会議は南東アジア管区的首座主教、ムーン・ヒング主教の司式で始まった。参加者は我々が直面する様々な課題、殊に過激な人々に対応して立ち上がることを求められた。これは東アジアの青年間で友情と協働が育まれるきっかけになるであろう。この様な話し合いを通して様々な検討が持たれ、課題が浮かび上がった。多くの参加者はそれぞれの国の特徴を表現する服装で各国独特の余興を披露し、それによって相互理解を深めた。

閉会の礼拝で首座主教、ムーン・ヒング主教は参加者を奨励し、イエスキリストの使徒となって各教区や教会に帰って神様の役に立つ行動をするように助言した。

結果としてこの青年会議は大成功であった。参加者はイエスキリストの使徒となるチャレンジを持ち帰り、全ての人々に福音をもたらすことが

期待される。また、CCEA青年会議を通して新たな友人関係が生まれた。

### ○ サンチアゴ・デ・コンポステラに新しい聖公会センターの提案

スペイン改革聖公会はサンチアゴ・デ・コンポステラに聖公会センターの建設を計画している。この街はスペイン北西部にあり、エルサレム・ローマに次ぐキリスト教の第三の聖地として知られている。また、少なくとも9世紀の初めから巡礼者が求めて訪問する場所であり、使徒聖ヤコブが葬られていると信じられている。

巡礼路の終着点に予定されているセンター建設費用は約500万ドルと見積もられた。

センター建設検討の為の初めての会議がニューヨークで持たれ、現在巡礼者がカトリック信徒よりもプロテスタント信徒が多数であることを考慮すれば、ぜひ実現すべきだとスペイン聖公会カルロス・ロベス・ロザノ主教付国家事務局スペンサー・リース司祭は結論した。

スペインは大多数の国民がカトリック信徒である為に他宗派の巡礼者が巡礼を終えても聖餐式をする場所が存在しない。また、エルサレム・ローマには聖公会のセンターがあるので第3の巡礼地も必要になろう。

### ○ 相模原殺傷事件後の精神健全者汚名への懸念

日本聖公会横浜教区三鍋主教は、相模原の障がい者施設で起こった19名の施設入居者が殺された事件に関して、一般市民が知的障がい者に偏見を持たないか心配であると語られた。主教はかつて、この施設からそう遠くない林間聖バルナバ教会に勤務したことがある。

施設の前職員である植松聡容疑者により、19名が死亡、負傷した26名のうち20名が重傷であるという。警察によると容疑者は「障がい者は存在しないことが好ましい」という理由から犯行に及んだと発言した。

主教は「特にこの事件が知的障がいを持つ人たちのための施設で起こったことに憤りを覚えています。一番弱い立場の人たちが一番大切に

されなければならぬというのがわたしたちの信念です。事実、家族や友人はかれらを心から愛していますし、施設のスタッフも親切だと評判の高い施設です。

たとえ知的障がいがあるにしても、人間としての感情はあります。人を愛することもできますし、楽しいことを楽しみ、嬉しいことを喜んでいきます。時としてわたしたち以上に感性(sensibility)が豊かな人たちです。余りにも衝撃的な事件で、まだ全体像が分かりません。しかし確かなことは、同じ命として愛され尊敬される人たちがこの悲劇の犠牲になったという悲しみです。

犯人は今年の初め頃から精神障がいを持って

いた可能性があったのではないかと報道されています。

わたしたちはこの事件をきっかけに精神障がい者への偏見が強くなることを非常に心配しています。身体障がいを持つ人々、知的障がいを持つ人々、精神障がいを持つ人々、そして健常者といわれるけれども色々な弱さを持っているわたしたちがお互いに尊敬し合い支え合うことの出来るコミュニティを回復するために何が出来るか、この悲しみの中にあっても祈り求めています。お祈りください。」と語った。(本稿はACNSからのインタビューに三鍋主教が応じたメッセージをまとめたものである。)

## 読者の声

### 「管区事務所だより」への要望

いつも「管区事務所だより」をお送りくださり有難うございます。聖公会新聞がなくなった今、これがなければ一般信徒は日本及び世界の聖公会の動向を知ることができませんので、大変たすかります。隅々まで読ませていただいております。

願いが一つあります。聖公会新聞の短歌、俳句欄は私の楽しみでした。それが失われた今、代わるものとして「管区事務所だより」の一隅に文芸欄を置いて頂けないでしょうか。単なる花鳥風月だけでなく、社会詠も取り上げていただければ一。例えば以下のような(腰折れでお恥ずかしいのですが)ものなど如何でしょうか。紙数の関係や、選者のことなど、面倒なことかもしれないと思いますが、読者の範囲が広がるのではないかと思います。ご一考頂ければ幸いです。

(リベカ・Y.K.)

#### ・短歌六首

9条を壊さんという輩(やから) 戦後我等得し  
歎息奪うな

憲法はGHQのみの作ならず 日本人・鈴木  
安蔵忘るるなかれ

軍隊を持たぬ小さな国数多(あまた) 世界にある  
を恐れ防衛相

憲法を守るは首相の義務なるに それを知らず  
や学び直せよ

有能なテレビキャスター姿消し 真実を知る術  
(すべ) 狭まりぬ

会議にてマイナンバーを問われるに疑念を示す  
「我は我なり」

リベカ・Y.K.

### 【編集室より】

菊田米子様(横浜教区)から広報主事宛てにお寄せいただいた「管区事務所だよりへの要望」全文を紹介させていただきました。「事務所だより」に対する率直な御意見を賜わり、感謝申し上げます。

「管区事務所だより」は日本聖公会の理念と活動の実際を伝える公報誌であることを編集の基本としておりますが、その一方で北から南まで日本聖公会の全11教区の教会信徒一人ひとりの思いを多角的に伝える広報誌としての使命をも担いたいと願って編集を重ねてまいりました。例えば、管区が開催する各研修会への参加者の感想を必ず掲載するようにして、信徒の声が誌面に反映するように努めております。

このたび菊田様が要望される定期的な文芸欄設置の御提案につきましては、誌面構成の今後の課題として検討させていただきますが、私

どもが当面なすべきことは、詩歌また評論・エッセイなど、日本聖公会の信徒の思いが真摯に記されている作品につきましては、「読者の声」欄を設けて随時掲載したいと考えておりますので、今後とも御寄稿をお待ちしております。

(広報主事・鈴木 一)

### □日本聖公会『管区事務所だより』購読の御案内

日本聖公会の宣教理念と管区・各教区の実践活動、また世界各国の聖公会の動向を毎号の誌面で的確にお伝える広報誌『管区事務所だより』の定期購読についてのお問い合わせが増えておりますので、誌面を借りて御案内いたします。

本誌は原則として年に10回発行、1年分の購読料は1,000円です(特別増刊号なども含む)。複数年分まとめてお支払いいただく場合は¥1,000の倍数にてお振込み願います。

なお、教会によっては教会委員の人数分をまとめてお申し込みくださる向きもだんだんと増えております。複数の部数を一括して御注文いただく場合には、1人1年¥500×人数分にて計算し、お申し込みください。発行の都度まとめて教会宛にお届けします。

購読料の振込み等については、管区事務所宛に電話にてお問い合わせください。

電話：03-5228-3171

### 〔日本聖公会の刊行物〕

日本聖公会祈禱書	口語	日本聖公会編	A6判	定価 2,330円 + 税
日本聖公会聖歌集		日本聖公会編	A5判	定価 2,857円 + 税
日本聖公会祈禱書	文語 皮装	日本聖公会編	A6判	定価 3,500円 + 税
日本聖公会祈禱書分冊	「聖餐式」	日本聖公会編	A5判	税込 300円
日本聖公会	「大斎中の礼拝」	日本聖公会編	A5判	税込 350円
日本聖公会	特禱・聖餐式聖書日課A年	日本聖公会編	A6判	定価 1,600円 + 税
日本聖公会	特禱・聖餐式聖書日課B年	日本聖公会編	A6判	定価 1,600円 + 税
日本聖公会	特禱・聖餐式聖書日課C年	日本聖公会編	A6判	定価 1,600円 + 税
〔2017年度 教会暦・日課表〕		日本聖公会管区事務所編		税込 300円
〔日本聖公会法憲法規〕		日本聖公会編		定価 600円 + 税
〔日本聖公会要覧 2013～2015〕		日本聖公会管区事務所編		税込 1,000円
日本聖公会	教籍簿	日本聖公会管区事務所発行		定価 2,500円 + 税
日本聖公会	礼拝日誌	日本聖公会管区事務所発行		定価 1,500円 + 税
日本聖公会	結婚簿	日本聖公会管区事務所発行		定価 2,500円 + 税

#### ★日本聖公会の現在を伝える—

「日本聖公会管区事務所だより」(年10回刊、16～24ページ建て)

#### ★海外向け広報誌

NSKK NEWSLETTER (不定期刊)

聖公会手帳 2017 (大型版 税込2,200円/普通版 税込1,200円)

□WEBサイト・ライブラリー (日本聖公会管区事務所ホームページで閲覧出来ます。)

『女性の司祭叙任に関する学びのためのテキスト』

『監督ウイリアムス師傳』

※上記書籍についてのご注文は聖公書店 (Tel 04-2900-2771)、またはお近くの書店をお願いします。

「だれが、キリストの愛からわたしたちを引き離すことができましょう。

艱難か。苦しみか。迫害か。飢えか。裸か。危険か。剣か。」ロマ8:35

=====

### 《九州教区・九州地震被災者支援室より第6信》

## 支援活動～被災者を「孤立させない」ため～の取り組みについて

=====

+主の平和がありますように

はじめに、皆さまの日々の篤い祈りとご支援ご協力に心より感謝申し上げます。

4月14日・16日、前震・本震の発生から丸5カ月が経過しました。この間、唯一の不明者だった大学生・大和晃さんの遺体が発見される(8月15日)など、人の命の重み、また今尚被災地に多くの痛みと悲しみが渦巻いていることをあらためて感じさせられます。

ご存知のとおり、この度の地震被害は収束したわけではなく、震度1以上の地震はすでに2,113回を超えており、時折震度3以上の強い余震が発生しています。

先日の報道によれば(9月13日現在)、熊本県の罹災証明書発行件数は、184,588件。その内訳は、全壊12,643件(6.8%)、大規模半壊12,275件(6.6%)、半壊43,759件(23.7%)、一部損壊115,911件(62.8%)。

私たちが度々訪問している益城町のある地区は、その一帯のほとんどの家がつぶれたり傾いたりしており、「この地区の建物はすべて取り壊さないといけない。私たちの町が消えてしまう」と嘆く人たちの声が聞かれます。

9月半ばで多くの避難所が閉鎖され、仮設住宅や新たな住居に移行する人々もいますが、他方、壊れた自宅の前に小屋を建て、あるいはコンテナハウスを設けて住み続けている人も見られます。まだまだ「生活再建」には程遠い状況にある人々が多く見受けられます。

### ◆《重要》ボランティアセンター移転について

これまで活動の拠点にしてきた熊本聖三一教会は、続く余震により建物の痛みが進み、9月末から修復工事を実施することとなりました。したがってこの教会で支援活動が続けることが困難となりました。しかし私たちは、今しばらくこの活動を継続させる必要を感じています。そこで新たに熊本市東区の住宅を借り受け活動拠点とすることにしました。2階建ての木造家屋で、ある程度広いスペースを確保することができました。10月4日以降はこの新拠点を中心に活動することとなります。所在は以下のとおりです。

「熊本聖三一ボランティアセンター」

〒861-8035 熊本市東区御領一丁目10-71

連絡先 TEL / FAX 096-384-3202 (熊本聖三一教会)

名称は変更いたしません。現地に「看板」を設置します。

固定電話はありませんので、連絡先は当面、これまで通り熊本聖三一教会といたします。



難点はこれまでと比べてアクセスが不便になること。熊本聖三一教会から車で約15分の距離です。公共交通機関を使いボランティア活動に参加して下さる方は、スタッフと事前に打ち合わせをした上で、熊本聖三一教会等で待ち合わせて移動することになります。

#### ◆支援活動の展望について

私たちは、この活動を通して直接被災地に立ち、九州地震（熊本地震）による被害が極めて甚大であることを、目の当たりにしてきました。また繰り返し唱えてきた「九州地震被災者のため」の祈りにあるとおり「今なお余震が続き…過酷な日々を過ごす人びと」、「心に傷を負い、不安の中に置かれ」ている人々との出会い、そして関わりを経験してきました。そのように、生活困窮状態が続いている人々、またなかなか新生活へ移行できない人々が多数おられる被災地の現状に触れ、今しばらくは、被災者の必要を見極めつつ工夫して支援活動を継続することにしました。これまでの片付け・清掃、各補修作業、塀の解体やガレキ撤去の作業に加え、さらに需要が増えると思われる引越しの手伝いや、仮設住宅の訪問、傾聴や子どもたち向けの本読み聞かせなど、精神的サポートにも取り組みたいと思います。

但し、教会外にボランティアセンターを設けての活動は、本震発生日（4月16日）を起点として、半年（10月16日）を節目として体制の見直しを図ります（週の活動日数を限定し、より集中した活動を行う方向で調整中）。その後2か月毎を目安に活動内容を見直し、最長1年の活動としたいと考えています。

#### ◆ボランティア募集中!! です。

ボランティア登録延人数は、9月23日現在で225名となりました。九州教区内の各教会から、そして各教区から、さらに立教大学やプール学院など関係学校からも参加して下さっています。また多くのリピーターがおられることも大変心強く、励まされています。寝食を共にしつつ一緒に祈り働いて、よき交流の場、学び合いの場にもなっています。感謝いたします。上記「展望」にあるとおり今後活動体制を調整していきますが、ぜひ、支援ボランティアへのご参加よろしく願いいたします。尚以下の点をご留意ください。

- ・登録は、活動開始希望日の少なくとも1週間前までをお願いいたします。
- ・現在、日曜日および月曜日は、「活動休止日」としています。
- ・体制変更等のお知らせは、下記ウェブサイトに掲載します。

#### ◆九州教区のウェブサイトをご覧ください!

「日本聖公会九州教区」を検索。「About us」の「九州地震被災者支援室」をクリック。  
さらに、「◎フェイスブック「FaceBook」版はコチラから」をクリック。  
これまでの具体的な活動の様子を見ることができます。

ご協力よろしく願いいたします。

2016年9月24日

九州教区主教 ルカ 武藤 謙一  
九州教区・九州地震被災者支援室  
室長 司祭 マルコ 柴本 孝夫

管区事務所  
〒162-0805  
東京都新宿区矢来町65番  
電話 (03)5228-3171  
FAX (03)5228-3175

日本聖公会

NIPPON SEI KO KAI

PROVINCIAL OFFICE  
65, Yarai-cho, Shinjuku-ku  
Tokyo 162-0805, Japan  
Tel. 81-3-5228-3171  
Fax. 81-3-5228-3175

東京高等裁判所 第4刑事部  
裁判長 植村 稔 様

**狭山事件の再審開始と東京高等検察庁へ更なる証拠開示勧告をするよう求めます**

狭山事件の第3次再審請求が貴東京高等裁判所第4刑事部に申し立てられて53年になります。再審請求人の石川一雄さんが無実を訴えて半世紀以上になってしまいました。この長年の無実の訴えに耳を傾け、一日も早く裁判を開始するよう要請いたします。

東京高等検察庁にはまだ多くの証拠が残っています。更に貴高等裁判所が検察庁手持ちの証拠を開示するよう勧告するよう要請します。

狭山事件の再審開始を求め下記のことを強く要請いたします。

- 1 弁護団が求める証拠の開示を東京高等検察庁に対して勧告して下さい。特に東京高検以外の埼玉県警や浦和地検等の証拠物の一覧表を弁護団に提示するよう検察官に勧告して下さい。
- 2 事件当日に「殺害現場」とされる場所の隣の畑におられたOさんの証人尋問、現場検証を行って下さい。
- 3 証拠開示された逮捕当日の石川さんの上申書と脅迫状の筆跡は明らかです。筆跡鑑定の証拠調べ、鑑定人の尋問を行って下さい。

今日まで貴裁判所の要請に、検察庁の意見書は事件の真相に向かうことを拒否するものです。公の力で集められた証拠を眠らせたままにし、真実に立ち向かおうとしない姿勢であり、このような検察の意思に強く憤りを感じます。

既に貴裁判所の勧告で開示された証拠、弁護団提出の多数の新証拠等により裁判の開始は十分と考えられます。狭山事件は市民常識として疑問の多い事件です。中学生の時には男子に意見で来た女子高校生が、見も知らない男に、走行中の自転車止められ、「一寸来い」でのこのことついて行くでしょうか。また、農作業中の人がいる目の前で、その人に助けを求めず、目隠しされ、強姦されるようなことがありうるでしょうか。これらがどのような証拠で認定されたのでしょうか。この判決は市民常識と相反すると思われまます。

貴裁判所が真実を明らかにするために、新証拠、疑問点について鑑定人尋問などの事実調べを行い、この狭山事件の再審を開始するよう要請いたします。

公正・公平な再審請求の審理を求めます。

2016年6月4日

日本聖公会第62（定期）総会

議長 主教 植松 誠

管 区 事 務 所  
〒162-0805  
東京都新宿区矢来町65番  
電話 (03)5228-3171  
FAX (03)5228-3175

日 本 聖 公 会

NIPPON SEI KO KAI

PROVINCIAL OFFICE  
65, Yarai-cho, Shinjuku-ku  
Tokyo 162-0805, Japan  
Tel. 81-3-5228-3171  
Fax. 81-3-5228-3175

東京高等検察庁 御中

狭山事件にかかわる証拠開示を求めます

狭山事件は現在、東京高等裁判所に第3次再審請求が申し立てられています。

狭山事件では事件当時多くの捜査資料が集められ、東京高等検察庁も積み上げると2～3メートルに及ぶ証拠があることを認めています。この間、裁判所の勧告もあっていくつかの証拠が開示されてきていますが、まだ多くの証拠が開示されていません。貴検察庁が裁判所に提出した書類で「不見当」とするだけで貴検察官手持ちの証拠の内容さえ弁護側にわからないのでは公正な裁判が保証されかねます。

新証拠の発見を要件とする再審制度の趣旨からも貴検察官の手持ちの証拠の開示は当然です。国連も検察官手持ちの証拠への弁護側のアクセスを保障するよう勧告しています。新証拠となる可能性のある証拠を検察官がことさら隠すことは正義に反します。袴田事件では、検察官がこれまで「ない」と言っていた写真ネガや取り調べテープがあったとして出されています。東京高等検察庁が公正・公平・誠実に狭山弁護団の証拠開示請求に応じるよう強く求めます。とくに、東京検察以外の埼玉県警や浦和地検などの証拠物一覧表を速やかに弁護団に開示するよう要請します。

2016年6月4日

日本聖公会第62（定期）総会  
議長 主教 植松 誠

群馬県・草津における  
聖バルナバミッション100年記念特別企画

聖バルナバミッションとコンウォール・リー女史に学ぶ  
**展示会と講演会**

ハンセン病者の人間回復をめざして展開したコンウォール・リー女史の  
聖バルナバミッションは今年で創設後100年の年を迎えました。

国立ハンセン病資料館 入館料無料

展示会 2016年10月26日(水)～30日(日) 9:30～16:30

講演会 ①2016年10月29日(土) 13:30～15:00 1F 研修室

「画像で見る聖バルナバミッション100年」

講師 司祭 松浦 信

草津聖バルナバ教会・聖慰主教会牧師、リーかあさま記念館事務局長

②2016年10月30日(日) 13:30～14:20 1F 研修室

「ハンセン病を通して福祉を考える」

講師 新田さやか 東日本国際大学准教授

③2016年10月30日(日) 14:30～15:30 1F 研修室

「聖バルナバミッションとリー女史の働き」(仮題)

講師 中村 茂 キリスト教史学会会員 前フェリス女学院中高教諭

交通案内

■バス

- 西武池袋線 清瀬駅南口から  
西武バス 久米川駅北口行 10分  
「ハンセン病資料館」で下車
- 西武新宿線 久米川駅北口から  
西武バス 清瀬駅南口行きで約20分  
「ハンセン病資料館」で下車
- JR武蔵野線 新秋津駅から  
西武バス 久米川駅北口行き約10分  
「全生園前」下車、徒歩10分  
または徒歩約20分

■自動車

- 新青梅街道「北原」交差点より約7km
- 新青梅街道「栄町1丁目」交差点より約4km
- 関越自動車道 所沢ICから約9km

■所在地

- 〒189-0002 東京都東村山市青葉町4-1-13
- TEL 042-396-2909 / FAX 042-396-2981

主催

- 日本聖公会北関東教区
- 聖バルナバミッションとリー女史記念事業推進委員会
- 問い合わせ先：リーかあさま記念館
- TEL 090-5311-6760・FAX0279-88-3640



日本聖公会管区事務所ホームページ <http://www.nskk.orgprovince/>

☆「管区事務所だより」についての要望・寄稿などをメールでお寄せください。